

## 伊是名島の魅力

～尚円王（北の松金）の足跡を辿る～



### 1. お庭（みほそ所）

尚円王「島名を北(=シ)ぬ松金、のちに金丸」は、首見邑（今の字諸見）の生まれで、王位即位後に、その生誕地内に「お庭」が造られました。お庭の拝所内の大石の下に「尚円王のみほそ」が安置されたということで、お庭のことを「みほそ所」とも呼ばれ、島の聖地となっています。



### 2. アサギ（みほそ所の管理者）

松金(のちの金丸・尚円王)は、首見邑(今の字諸見)のアサギ(首見ヌヒヤ家)で産声をあげました。屋敷後方西側に松金の臍の緒を埋めたと、後に、東側にお庭（みほそ所）を整備して移したと伝えられています。現在でもみほそ所の管理者(首見ヌヒヤ・そして代々の子孫)の屋敷として続いており、住家の上座に尚円王の火の神(ヒヌカン)が祀られ、諸見区の参拝所の一つとなっています。なお、アサギと神アサギは同一敷地内にあり、一般的に「アサギ」と呼んでいます。



### 3. 神アサギ

この神アサギは祭祀に使用される建物で、俗称「アサギ庭」「神庭」と呼ばれています。古くから村の神行事である2月ウマチー(麦稲祭)、3月ウマチー(麦大祭)、5月ウマチー(稲穂祭)、6月ウマチー(稲大祭)、東取、ナークチ、ウンザミ、シヌグ、大祈目、イルチャヨー等が行われてきた文化・伝統的な場所です。なお、神アサギは字伊是名、字勢理客、字仲田にもあります。



### 4. 尚円王生誕御庭公園

尚円王生誕580(イヒャオー)年を記念して整備された公園です。お庭(みほそ所)、アサギ、スンザガーの背後地にあります。村出身の版画家、名嘉睦稔氏制作による若き日の松金像(のちの金丸・尚円王)が建立されています。



#### 5. 潮平川（スンザガー・井戸）

北(ニシ)ぬ松金(のちの金丸・尚円王)が産湯を使ったと云われるスンザガー(井戸)。みほそ所から東へ70米のところにあります。みほそ所とともに村民の尊崇厚い大事な場所です。



#### 6. 尚円王通水節公園

首見邑(字諸見)で生まれ暮らしていた松金(のちの金丸・尚円王)も青年期になると、険しくて寂しい通水の山道を愛馬にまたがり、恋人逢いたさに勢理客邑(今の字勢理客)へ通ったと伝えられています。その時の寂しさ、切ない熱い思いを詠ったのが、「通水の山や 一人越てしらぬ 乗馬と鞍と 主と三人」(通水の山は一人で越えても、誰も知る人はいない。知っているのは、乗馬と鞍と主人である自分の三人だけだ。)という、今に歌い継がれている「通水節」であります。尚円王生誕600年祭を記念し、新たに整備された公園です。



#### 7. 逆田

北(ニシ)ぬ松金(のちの金丸、尚円王)が農業に勤しんだ田圃です。この田圃は、他の田圃より上の方に在るのに、早魃時でも涸れることがなかったのです。そのため、他の農民達は下の田圃に畦をきって水を引き入れるのですが翌朝には乾し上がり、上の田圃だけ水が満々としているのを不思議に思い、「水が逆さに流れた」と云って、「逆田」と呼ぶようになったそうです。さらに、「百シジのハンタ うさんしち見りば 北(ニシ)ぬ松金が 手振り美らさ」と邑の娘達から慕われていた松金は、青年達からこの際にと「水泥棒」の嫌疑をかけられてしまったそうです。身の危険を感じた松金は、老人の指南を受けて、本島へ旅立つ機会だと海岸からくり舟を漕いで国頭を目指したと伝えられています。



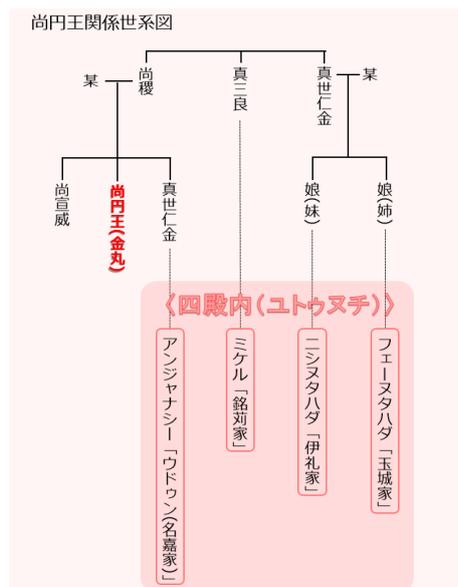
#### 8. アハシチヌハマ (赤崎ぬ浜)

松金(のちの金丸、尚円王)が島から本島の国頭を目指し、くり舟を漕いで旅立った時の海岸の地名です。島人は、この海岸を「アハシチヌハマ」と呼び、さらに、御主加那志(尚円王)が踏んだ土地なので、「ウシュフンチャ」とも呼んでいます。



## 9. 伊是名玉御殿

伊是名城跡北側の麓にあるお墓です。第二尚氏王統の開祖・尚円王の家族(左室)、親族(右室)を葬る王国時代の聖墓の一つです。1688年に三代目となる尚真王(尚円王の孫)が現在の石像製の墓に修復したとされています。昭和33年に県指定の文化財に指定されています。



## 10. 四殿内(ユトゥヌチ)の誕生

伊是名島の首見邑(今の字諸見)出身の尚円王(北ぬ松金・金丸)が島を出て天下人になったために、島に居住する姉・叔父・叔母の3名に特別職が与えられました。姉の真世仁金(マゼニガニ)には「伊平屋の阿母加那志(アンジャナシー)」という神女職が、叔父の真三良には「銘苅大屋子」という特別職が、叔母の真世仁金(マゼニガニ)には「二かや田の阿母」という神女職が与えられ、代々世襲されることになりました。しかし、叔母の真世仁金が亡くなった後には2人の娘が同時に「二かや田の阿母」職を継ぎ、「南風(姉)」と「北(妹)」の2つに分けられました。銘苅大屋子は男子のみ、他の3家は女性が代々世襲しました。この4つの特別職「四殿内(ユトゥヌチ)：アンジャナシー「ウドウン(名嘉家)」、ミケル「銘苅家」、フェーヌタハダ「玉城家」、ニシヌタハダ「伊礼家」が誕生しました。



### 1 1. 公事清明（クージシーミー）

シーミーの風習は、18 世紀に中国から伝わったと云われています。1768 年琉球国王家の祖先供養祭祀が、首里玉陵で執り行われたのが「公事清明」の始まりだと伝えられています。伊是名城祉の麓に玉御殿と云う墓陵があり、尚円王の親族が葬り祀られています。1870 年、琉球王府は伊江王子を代表とする使節団を伊是名島に派遣し、首里玉陵で行われているのと同様な「公事清明(クージ シーミー)」を執り行うよう四殿内に指導しました。以後、首里風の格式あるシーミーが執り行えるよう、必要な祭祀道具類とマニュアルを示して行かせたのが、伊是名島の「公事清明」の始まりだそうです。その玉御殿には、尚円王の父母、尚円妃、姉、あんがなしー（姉の子孫）、叔父、銘苺大屋子（叔父の子孫）、叔母、二かや田の阿母（叔母の子孫）たちが葬られています。さらに、2005 年に尚家第 22 代目の当主尚裕氏（10 月 17 日）、井伊文子氏（8 月 17 日）きょうだいが葬られています。現在、公事清明が執り行われている地域は伊是名島だけです。



### 1 2. 銘苺家住宅

銘苺家は「伊平屋島の夫地頭(銘苺大屋子)」職を世襲制で務めた家で、尚円王の叔父(父の弟)にあたる家系です。他の 5 名の夫地頭は平民から任用されました。銘苺家のみが士族で、大屋子の一人は銘苺家の当主が就任できるという特例になっていました。主に王家に関する祭祀や行事を担当する地位にあり、島に住む王族を代表する者としてしばしば首里に出張し国王に謁見していました。銘苺家住宅は、明治 39 年に再建されました。沖縄戦の被害を免れたことで保存状態も良く、昭和 52 年(1977 年)に国指定重要文化財(建造物)に指定されました。